学生のアイデアを障がい者グループホーム実現に活かす

研究目的

「福祉のまちづくり事業」のために、大学と総合建設・福祉会社が連携して取り組 み、学生のアイデアを障がい者グループホームの実現に活かした。それを概観し今 後の課題を抽出する。

福岡市の知的障がい者を取り巻く状況 福岡市は 全人口に占める障がい者数の割合(5.4%)は 福岡市 全国割合(7.6%)に比較して少ないが、 (人) (万人) 障がい者数に占める 身体障がい児・者 17.454 436 身体障がい児・者 知的障がい者の割合(約25%)は 109.4 12,497 知的障がい児・者 全国割合(約10%)に比較して多い。 17,454 精神障がい者 419.3 施設に入所している知的障がい者は 70% 全国は厚生労働省推計データ(2020) 全国割合は5.0%、福岡市では2.4%である。 福岡市は福岡市調査データ(2020)をもとに作 知的障がい者(N=521) 知的障がい児・者 精神障がい者[通院](N=934) 精神障がい者[入院](N=875) 発達障がい児・者(N=263) #障がい児・者 難病患者(N=556) 100% ■ その他 ■施設入所者 ■家族と同居 全国 福岡市 福岡市障がい者等実態調査報告書(2019)をもとに作成

連携体制

(3)

香川治美教授

支援

産学共創・研究推進本部

九州産業大学建築都市工学部 住居・インテリア学科 居住環境デザインスタジオ 香川治美研究室 22UH062 森陽菜 23UH054 前川佳人

K S U

支援

総合情報基盤センターCNC

連携

・ 株式会社 スエナガ

障がい者グループホームの運営・建設 【役割】建設事業・福祉事業

・福祉のまちづくり事業

・取り組みによる将来的な人員の確保

• JA福岡市 【役割】農家(総合員)支援 |(株)ジェイエイ福岡 【役割】不動産事業

安心計画(株)

住空間プレゼン用CAD Walk in Home の提供

ESRIジャパン(株)

【役割】利用アプリ AIを使った分析



アカデミックパック提供

【役割】地図データベース提供

(株)ゼンリン

・学生の研究フィールド+現場での実体験の場の確保 →KSUプロジェクト型教育による実践力+共創力+統率力の習得

建築都市工学部 住居・インテリア学科

居住環境デザインスタジオ

【役割】

専門技術、技能を活かして

地域課題の解決、活動を遂行する

支援

【役割】技術·技能指導

活動内容検討・管理・調整

活動資金調達

- ・インターンシップの受け入れ先+就職先の確保
- ・大学の広報活動

2021年 2022年 地理情報データを用いた

取り組みスケジュール

福岡市障がい者グループホーム立地評価及び必要エリア特定

障がい者グループホームの設計コンペティションと建設

2023年

5/8 6/23 9/8 5/30 壁紙選定 竣工 床下工事 スプリンクラー配管工事

施設入所開始

2024年

今後の課題 在室者の行動分析

2025年

地理情報データを用いた障がい者グループホームの必要エリア特定

重回帰式

コンビニ

食品

スーパー

病院

バス停

ドラッグ

 $Y = Ax_1 + Bx_2 + Cx_3 + Dx_4 + Ex_5 + Fx_6 + Gx_7$ X₄=バスの個数

G=就労施設の必要性 $X_1 =$ コンビニエンスストアの個数 $X_5 =$ ドラックストアの個数

 $X_2 =$ スーパーマーケットの個数 $X_6 =$ 駅の個数 X₇=最も近い就労施設までの距離 X₃=病院の個数

Y | X₁ | X₂ | X₃ | X₄ | X₅ | X₆ | X₇ 半径500m 候補地1 福岡市博多区那珂4丁目 2 1 1 6 1 0 -0.961 候補地2 福岡市博多区井相田3丁目 2 0 1 1 0 0 -1.443 候補地3 福岡市博多区東那珂3丁目 3 0 0 3 1 0 -1.539

> 予測入所者数 半径1km

候補地1 福岡市博多区那珂4丁目 9 3 18 19 3 0 -0.961 候補地2 福岡市博多区井相田3丁目 9 2 15 13 1 1 -1.443 候補地3 福岡市博多区東那珂3丁目 9 1 6 15 2 0 -1.539

| < 成果 >

・障がい者GHの必要性を予測できる重回帰式を明らかにした。 ・重回帰式の計算結果が大きい候補地ほど

障がい者GHの必要性が高いことが分かった。

・候補地3の値が最も大きくなった→GHの必要エリアを特定した

参考: 18UH006犬童健太、 18UH030小峰大知 2021年度卒業研究

地理情報データを用いた福岡市障がい者グループホームの立地評価及び必要エリア特定

●新規立地条件を加えた既存グループホームの立地特性を表す重回帰式

 $Y = Ax_1 + Bx_2 + C_1x_3 + C_2x_4 + Dx_5 + Ex_6 + Fx_7 + Gx_8 + Hx_9 + Ix_{10} + Jx_{11}$

x₉=1km圏内の災害危険区域の割合[%] Y=予測入居者数

H=災害危険区域の必要性 X₁₀=1km圏内で最も大きい公園までの距離[km]

X11=人材ポテンシャル I=公園の必要性 J=人材ポテンシャルの必要性

●人材ポテンシャルの値を表す重回帰式

 $J_{X_{11}} = J_{1X_{11}} + J_{2X_{11}} + J_{3X_{11}} + J_{4X_{11}} + J_{5X_{11}}$

J₁=郊外ヤングファミリーの必要性

J₂=30代人口の必要性

J₃=40代人口の必要性 J₄ = 50代人口の必要性

J₅=60代人口の必要性 x_{11} ① = 1 km 圏内の郊外ヤングファミリーの世帯数の割合[%]

x₁₁②=1km圏内の30代人口の割合[%]

x₁₁③ = 1km圏内の40代人口の割合[%]

x₁₁4=1km圏内の50代人口の割合[%]

x₁₁⑤=1km圏内の60代人口の割合[%]

<成果>

・障がい者GHの必要性を予測できる重回帰式を見直した。

・重回帰分析で得られた予測入所者数と定員数を用いて、 既存する障がい者GHの立地条件を評価した。

参考: 19UH045濱崎郁哉 2022年度卒業研究

地理情報データを用いた障がい者グループホームの立地評価の改訂

<成果>

・施設利用者全員が、自宅からの距離を優先して選んだことが分かった。 →住宅街に障がい者グループホームがあるべきと考える。

・予測入所者数と定員数を用いて、障がい者GHの立地条件評価した。

・災害危険区域以外の安全を確保できる場所に障がい者GHを建てるべきである。

グループホームを選ぶ際に重視したこと 参考: 20UH013岩瀬龍昇 2023年度卒業研究

建設予定地の視察と地域の歴史の勉強会

自宅からの距離を重視

0 10 20 30 40 50

KBCをはじめ

いただきました

紹介して

■利用者·利用者家族 ■従業員

なし

車通勤が可能か

施設の雰囲気

公園までの距離

バス停までの距離

歯科医院までの距離

病院までの距離

スーパーまでの距離

コンビニまでの距離

自宅からの距離

職員の数

用途地域

災害区域の割合

デイサービスまでの距離

就労施設までの距離

駅までの距離

ドラッグストアまでの距離

「Walk in home | と「Twinmotion | を用いた障がい者グループホームの設計コンペティションと建設 <成果>

2021年、居住環境デザインスタジオと安心計画株式会社、 株式会社スエナガが連携して、住空間プレゼン用CAD 「walk in home | を使用して障がい者グループホームの設

計案、デザイン案を競う「Gh-1グランプリーを開催した。



Gh-1グランプリとは?

このたび安心計画株式会社は、九州産業大学と共同の取組みとして、香川治美ゼミの学生が制作したグループホームのデザイン案を競う「Gh-1グ

https://www.anshin.co.jpevent/437

18UH037 城田裕二、19UH030 佐々木空良



共用スペースパース



·階平面図

床下工事 (2023/5/8)

スプリンクラー配管工事(2023/5/30)

二階平面図



壁紙選定 (2023/6/23)







今後の課題

2021年以降取り組んできたが、その妥当性を検証する必要がある。 今後の課題は、障がい者グループホームの室内環境で 特に共用スペースにおいて、施設利用者が安全かつ快適に 生活できているのか明らかにすることである。





障がい者グループホームの共用スペース (2025/1/16)